医療健康

狭心症治療の実力病院
（2015年４月～16年３月に「手術あり」が420例以上）

	医療機関名	所在地	診療実績				運営体制	施設体制	
			手術あり			手術なし	医療機能評価機構（点）	冠動脈ＣＴ撮影加算	心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
				冠動脈バイパス手術など	カテーテル手術など				
北海道・東北	札幌心臓血管クリニック	北海道	2402	91	2305	945			○
	札幌東徳洲会病院	北海道	547	46	498	850	71＊		○
	仙台厚生病院	宮城県	722	73	641	2377		○	○
	いわき市立総合磐城共立病院	福島県	481	40	440	484	68＊	○	
関東	済生会宇都宮病院	栃木県	448	24	415	353	76	○	○
	足利赤十字病院	栃木県	436	21	411	448		○	○
	埼玉石心会病院	埼玉県	719	30	686	529	74＊	○	○
	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	埼玉県	526	14	510	377	70＊	○	○
	自治医大さいたま医療センター	埼玉県	481	87	388	401	74＊	○	○
	千葉西総合病院	千葉県	2112	122	1988	3505		○	○
	新東京病院	千葉県	1452	46	1399	1987		○	○
	千葉メディカルセンター	千葉県	540	40	498	841	69＊	○	○
	榊原記念病院	東京都	927	172	726	1293		○	○
	順天堂大順天堂医院	東京都	523	134	386	712	72＊	○	
	江戸川病院	東京都	458	21	437	85		○	○
	イムス葛飾ハートセンター	東京都	458	106	352	194			○
	綾瀬循環器病院	東京都	421	69	349	253			○
	湘南鎌倉総合病院	神奈川県	843	30	812	2092	76	○	○
	済生会横浜市東部病院	神奈川県	778	28	745	1318	79	○	○
	大和成和病院	神奈川県	503	111	386	698			○
	昭和大横浜市北部病院	神奈川県	490	14	471	630		○	
	横須賀共済病院	神奈川県	440	19	419	881	76	○	○
	川崎幸病院	神奈川県	426	—	416	412＊		○	○
中部・東海	心臓血管センター金沢循環器病院	石川県	441	27	411	593	69＊	○	○
	岐阜ハートセンター	岐阜県	611	56	554	850			
	岡村記念病院	静岡県	657	16	641	886	70＊		○
	豊橋ハートセンター	愛知県	765	64	699	338			○
	名古屋ハートセンター	愛知県	579	74	502	102			
	一宮西病院	愛知県	476	17	457	698		○	○
	安城更生病院	愛知県	436	69	367	170	76＊		○
	三重ハートセンター	三重県	430	—	422	93			○
近畿	湖東記念病院	滋賀県	443	22	421	156		○	○
	宇治徳洲会病院	京都府	494	—	484	324		○	
	桜橋渡辺病院	大阪府	716	37	676	560		○	○
	大阪警察病院	大阪府	489	29	459	452		○	○
	国立循環器病研究センター	大阪府	453	103	338	655		○	○
	ベルランド総合病院	大阪府	446	12	433	490	76＊	○	○
	東宝塚さとう病院	兵庫県	595	12	583	412			○
	関西労災病院	兵庫県	524	27	493	701	74＊	○	○
	高井病院	奈良県	664	23	641	311		○	○
中四国	心臓病センター榊原病院	岡山県	971	106	858	542	72＊	○	○
	倉敷中央病院	岡山県	688	51	631	815	80	○	○
	市立広島市民病院	広島県	494	20	470	1329	75＊		○
	徳島赤十字病院	徳島県	790	36	752	1442		○	○
	近森病院	高知県	429	36	388	702	75＊	○	○

日経実力病院調査

狭心症 再発抑える

カテーテル、技術・素材が進化

心筋に血液を送る冠動脈が狭まったり詰まったりする狭心症。日本経済新聞社が実施した実力病院調査では、カテーテルで血管を広げる「カテーテル手術」が〝進化〟していることが明らかになった。患者負担を軽減し、再び血管が細くなる再狭窄（きょうさく）を極限まで減らす地道な取り組みが続いている。

狭心症の治療は、生活習慣の改善と並行して薬の内服で始まることが多いが、病状が悪化すると手術が必要となる。今回の調査で「手術あり」が全国最多の2402件だった札幌心臓血管クリニック（札幌市）は、心臓血管外科医5人と循環器内科医13人の陣容で患者の状態に応じてきめ細かく対応する。

入院1泊2日も

得意とするのはカテーテル手術。血管が狭くなった場所まで細い管（カテーテル）を入れ、風船を膨らませて広げた後に金属製の筒「ステント」を置くのが一般的だ。カテーテルを入れるのは、出血量の少ない手首からが大半で、入院も1泊2日で済むという。

ステントが使われるようになった約30年前には1年以内の再狭窄率は3割だったが、13年前に炎症反応を抑える薬が塗られた「薬剤溶出性ステント」が登場するなど今では1割以下という。同病院は3％に抑えているといい、藤田勉理事長は「技術の高さの表れ」と自信を見せる。

カテーテル手術が7番目に多かった徳島赤十字病院（徳島県小松島市）。循環器内科の当別当洋平副部長は「カテーテルでほぼ完結できるようになってきた」と話す。

外科手術としては、他の部位の血管で閉塞した部分に迂回路を作るバイパス手術もある。バイパスの方が成績が良いケースもあったが、カテーテルの成績が上回るようになり、同病院では10年前と比べてバイパスが半減しているという。

超音波で血管内を撮影する血管内超音波検査の普及も合併症の低減に効果を上げている。血管内にステントを置くのは高い技術と経験が必要とされてきたが、置く前後の状態を正確に判断できるようになった。同病院は10年ほど前に導入、血管の状態を正確に評価してステントを選んでいる。

ステントも改良が重ねられている。2015年に外側のポリマーが数カ月後に体内に吸収されるタイプが登場。16年には金属を使用せず、数年後に完全に消失するものも実用化された。

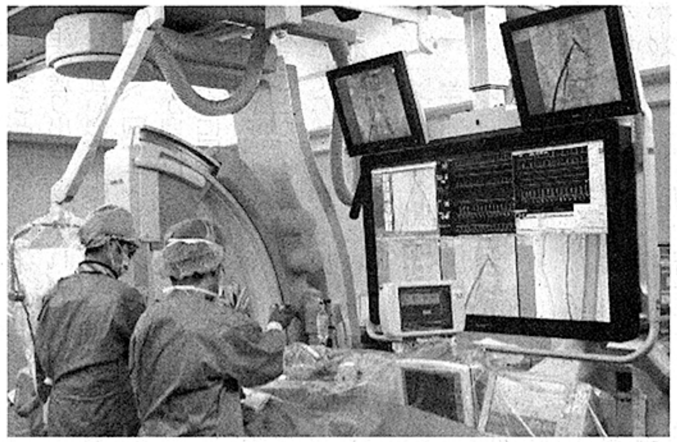
当別当副部長は「それぞれに一長一短があり、患者の状態に応じて5～6種類から最適なものを選び、使い分けている」と話す。「適切に病変を評価して、丁寧に治療する日本の血管内治療は世界でもトップクラス」と自負する。

ただ狭窄部が広範囲の場合などはバイパス手術が最後のとりでだ。心臓を動かしたままの手術では、特に高い技術力と経験が求められる。

次世代育成に力

榊原記念病院（東京都府中市）は今回の調査でバイパス手術の症例数が全国最多。以前は足の静脈を利用することがあったが、同院は胸骨に沿って走る内胸動脈を使用する。高梨秀一郎・心臓血管外科主任部長は「血管を正しく選び、有効に使えるかが患者の生活の質改善に大きく関わる」と力を込める。

豊富な症例数で次世代の育成にも力を入れる。専門医を目指す約10人の医師を受け入れ、1人あたり年200件の手術を経験させているという。



モニター画面を見ながら血管内治療をする医師（札幌市の札幌心臓血管クリニック）

拡大鏡を使いながら冠動脈に迂回路をつくるバイパス手術（東京都府中市の榊原記念病院）

3次元画像検査が普及

造影剤を使って心臓や周辺の血管をコンピューター断層撮影装置（CT）で撮影する「冠動脈CT検査」が普及し、狭心症の患者の負担は大きく減っている。検査にもカテーテルを用いるケースがあるが、入院が必要。冠動脈CTは3次元の画像が約15分で撮影でき、患者の負担軽減につながっている。

「心臓画像クリニック飯田橋」（東京・新宿）は画像診断に特化したクリニックとして2009年に開院。撮影が難しい拍動する心臓を立体的に撮影する。「年間の検査数は約4800件で、約6割が大学病院からの依頼」（寺島正浩理事長）という。

3万5千件以上の撮影実績を持つ桜橋渡辺病院（大阪市北区）は11年に世界に先駆けて被曝（ひばく）量を5分の1程度まで抑えた装置を導入。負荷を与えた際の心臓の状態も撮影し、冠動脈の狭窄度合いだけでなく、心臓全体の血流の状態もチェックできる。

検査時にすぐに処置が必要なことが判明した場合は、その場で入院、治療につなげることもあるという。放射線科の小山靖史部長は「機器をそろえるだけでなく、人材の育成が重要」と指摘する。これまでの症例を利用し、人工知能（AI）が結果を診断できる仕組みの開発にも取り組む。

桜橋渡辺病院では冠動脈のCT検査に力を入れている（大阪市北区）

より多くの病院を掲載した一覧表を電子版に▼ライフ→健康・医療→日経実力病院調査